

持続可能な開発の主流化を目指して

SDSN Japan 副議長 **武内 和彦**
(東京大学教授・IR3S 機構長、国連大学上級副学長)



昨年9月国連総会において「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。我々SDSN Japanは、このアジェンダの中核をなす「持続可能な開発のための目標」(SDGs)の達成に向け様々な活動を展開しています。

本年我が国にて開催されるG7サミット及び関係閣僚会議では、SDGsの実施に関する議論が行われることが想定されています。SDSN Japanとしては、SDGsの達成に向け、G7各国のリーダーが主導的な役割を果たすべきとの観点から、G7サミットプロセスに向けた提言を取りまとめることと致しました。この提言では、SDGsのガバナンスのあり方、多様なステークホルダーの役割について提案するほか、気候変動、持続可能な生産・消費、生物多様性、国際開発および教育といった各分野における行動の方向付けを行います。この提言は、関係省庁の幹部に届けるとともに、世界的に広がりのある働きかけも視野に、SDSNの世界ネットワークを通じて各国・各地域のSDSNメンバーとも共有していきます。

「持続可能な開発の主流化」(Mainstreaming Sustainable Development)が国際社会で唱われて久しくなりますが、各国における国家政策や企業活動方針の本流にどの程度組み込まれてきたかを見ると、残念ながらまだまだ十分とはいえない現状です。昨年国際合意されたSDGsは、以前のMDGs(Millennium Development Goals)と異なり、先進国も含め全ての国において達成を図るべき目標(universal goals)となっています。それゆえ、先進国が率先してSDGs達成に向けた政策転換を図ることは、「持続可能な開発の主流化」を目指す方向性と軌を一にしていると言えます。我々はこのような主流化のために、あらゆる機会を捉えて政府や企業のリーダーに対し働きかけを行っていくメカニズムを構築したいと考えています。そのためには、全てのステークホルダーがまず率先して具体的な行動を実践に移していくことが重要ではないでしょうか。そうすることで、各分野のリーダーも積極的に持続可能な開発をそれぞれの政策や活動方針の中に取り込もうという機運が醸成されてくると信じています。

SDSN Japanとしては、皆様方のご支援ご協力を得て、今後とも「持続可能な開発の主流化」が実現できるよう全力を傾注していく所存でありますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

マレーシアにてSDGs実施にかかわるシンポジウムおよびワークショップが開催されました

2016年2月29日-3月1日、マレーシアのクアラルンプールにて、SDGsの実施に向けた国際的/各国における展望についてのシンポジウムおよびワークショップ「On the Road to 2030 - Global and National Perspectives on Implementation of the SDGs」が開催されました。

本イベントは、SDSN (Sustainable Development Solutions Network)、国連大学サステナビリティ高等研究所(UNU-IAS)、ハイテクのためのマレーシア産業政府グループ(MIGHT)、マレーシア戦略国際問題研究所(ISIS)、マレーシア国民大学(UKM)環境開発研究所(LESTARI)および慶應義塾大学が開催したもので、SDSN Japanからは蟹江憲史教授が参加しました。

2015年9月の国連総会において採択された「持続可能な開発のための

2030アジェンダ」をめぐる、各国がどのようにグローバルに設定された目標に取り組んでいるのか、効果的な実施に向けた経験と今後の展望を共有することを目的に、日本、マレーシア、インドネシア、カンボジア、ドイツ、オーストラリアからの参加者が討論を行いました。



シンポジウムおよびワークショップの詳細については、IISDによるBriefing noteをご覧ください。

(英語のみ) <http://www.iisd.ca/sdgs/symposium-implementation/>

SDSN Japanの活動目的

1. SDGsを始めとするサステナビリティの課題への取組
2. 多様なステークホルダーとの協働のためのプラットフォーム構築
3. 国連機構や国際機関の関係者、各国・各地域ネットワークとの連携による国際動向のフォロー、および日本の成果の国際発信